

資源循環型農業を目指して (有限会社 あぐり)

<法人の概要>

所在地：愛媛県伊予郡松前町

設 立：平成 12 年 11 月

資本金：310 万円 売上高：8700 万円（平成 23 年）

構成員（議決権）：農業従事者 5 名（100%）

役 員：3 名（うち農作業従事 2 名）

従業員数：常時雇用者 2 名、臨時雇用者 12 名（水稻栽培期間）

経営面積：50.0ha（うち所有 0.7ha、借入 44.3ha） 基幹農作業受託面積：5.0ha

作付作物：米 40.0ha、じゃがいも 1.0ha、レタス 0.7ha、他



稲刈風景



堆肥散布風景

<営農を開始するまでの状況>

平成 12 年に 60a の農地をもとに農業生産法人「あぐり」を立ち上げ農業を始めたが、設立当初は、地域の農業者から「素人にやれるものか」との声も多く、周囲の理解を得るのに時間がかかった。しかし、真面目に農業に取り組む姿勢が認められ、地域の農業後継者の一員と認められるようになり、認定農業者やエコファーマーの認定も受け、当初 60a でスタートした経営面積は農業委員会を通じた賃貸借や作業委託の件数は年々増え、平成 24 年には 400 筆、50ha となっている。生産は設立当初から米、野菜ともに「無農薬・無化学肥料」にこだわっており、「愛媛県特別栽培農産物」の認証を取得しつつ栽培を行っている。

販売は松山市内道後温泉のホテルや料亭・レストラン、松山市周辺のレストランへ提供するとともに、市内量販店での販売やインターネットでの販売も行っている。さらに、加工品の販売も視野にいれ、「あぐり米」を使った清酒を県内の酒造会社と共同で製造、販売している。

＜特徴的な取組＞

「地域雇用の新しい担い手をめざし『人』『食』『農』を考えた脱農薬・脱化学肥料による資源循環型農業」という経営方針を掲げ、生活残さを自社培養有用微生物群により、高品質なぼかしへとリサイクルし、土づくりへと有効利用している。また、地元の松前町と共同で、従来焼却処分されていた家庭から排出される剪定枝を農水省バイオマスタウン構想のなかで建設した堆肥舎にて堆肥に変換しほ場利用している。これら有機肥料を有効にほ場に活用するには、土壌の状態を適切に判断する必要があるが、農家の方は自己所有の田畑で経験の積み重ねによって土の状態を判断することができるが、『あぐり』ではコメ作り名人のような歴史もその田に対しての経験もない。そこで、シブヤマシナリーと東京農工大学とで共同開発した近赤外線を利用した「リアルタイム土壌センサー」を活用し、水分・電気伝導率・全窒素量・全炭素・pH・硬度など、土作りの基本となる様々な土壌情報を測定した土壌分析を実施している。「リアルタイム土壌センサー」にはGPSを搭載しているので、測定したデータを基に高精度な土壌マップを作成して利用している。さらに、愛媛大と、ほ場ごとの収量や食味について、ほ場1枚ずつ調査し、生産にフィードバックする「精密農業」を実施している。また、耕作ほ場をひとつの工事現場と見なして、建設の工程管理と同様に管理し、人員の効率化を図り、原価管理は工事で培ってきたノウハウを流用し、作業者が日報を記入後、事務職員により入力が行われ、情報と計算値を蓄積している。新規に農業参入した『あぐり』には経験がないためこのような精密農業が必要であった。さらに、土地利用型農業のため、その地域に溶け込む努力も皆で怠らないようにして、地域独特の農習慣や農作業のコツを地域の農家の方に習っている。作った農産物は主に自社配達にて、直接消費者の方々へ販売して地産地消を推進し、遠方の安全な農産物を希望されるの方々へはこれらの取り組みについてはHPで公開するとともに、通信販売も行っている。

＜今後の農業経営の展開方向＞

営農と有機リサイクルの循環を行うことにより環境保全型農業の実践を進めてきて、その中で地域と一緒に木質系廃棄物を堆肥化したり、有機資材を使用することについて環境負荷がかかっていないか土壌診断を行ったりしてきた。また、消費者への説明として、徹底した生産履歴の管理と食味等のデータを蓄積、開示を行ってきた。

今後、更に農業技術の進歩に目を向け、無農薬、無化学肥料での栽培方法の確立、収量の増加、収支面での農業経営の確立を進めて行きたいと思っている。



リアルタイム土壌診断



剪定枝堆肥の利用